

## 緩和ケア研修会開催報告

地域連携係長 佐々木 拓

11月5日（土）、6日（日）の両日、当院講堂において緩和ケア研修会が開催されました。同研修会は、地域がん診療連携拠点病院の指定要件として、定期的開催が義務付けられており、当院では第9回目となります。研修の目的は、「がん対策推進基本計画」（平成24年6月閣議決定）が定めるとおり、がん診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することであり、厚生労働省が定めた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した内容で行われています。

今回の研修会では、二日目に11月上旬としては記録的な雪も降る中、医師・歯科医師35名（院内27名、院外8名）が参加しました。

初日は、がん疼痛の評価と治療等に関する講義に加え、医療用麻薬の使用開始を想定したシナリオを元に、参加者が患者や医師等の役割を演じるロールプレイが行われました。

二日目も、小グループで医師や患者の役割を演じてコミュニケーションの重要性を学ぶなど、実地に活かせる知識の習得を目的としたグループ演習にも取組み、参加者には新たな気づきを得る機会となり、フィードバックでは活発な意見交換が行われていました。

なお、来年度の当院の緩和ケア研修会は、開催時期を早めて5月27日（土）、28日（日）に開催する予定です。院内の参加状況に応じて、院外の医師の皆様にもできるだけ多くご参加いただけますよう、調整のうえ、開催日が近くなりましたら当院ホームページにもご案内を掲載しますので、ご確認くださいませよう願いたします。



研修中の様子

## がん診療連携拠点病院 市民公開講座の開催

診療情報担当係長 木ノ内 滋

市立札幌病院では、市民の皆さんにがんに関する正しい情報を提供し、当院のがん診療の取り組みを知っていただくことを目的として市民公開講座を行っています。今回は10月29日（土）に「がんところのケア」をテーマに開催し、約70名の参加をいただきました。

初めに、当院のこころのケアの現状とケアに携わる多職種（精神科医、専門看護師、臨床心理士）の仕事について事例を通じた紹介があり、各々が連携して診療にあたっていることを説明しました。

続いて、がん患者さんの心のケアを中心に診療にあたっている名古屋市立大学教授の明智龍男先生から、「がんになっても自分らしく過ごすために」と題する特別講演をいただきました。優しく穏やかな言葉で、がん診療の過程で「心のケア」がいかに大切なものなのかをお話いただきました。

両講演を通じて、患者さんやその家族に対し、がんと診断されたときから心の負担を少しでも軽減し、納得できる治療、ケアを受けることができるよう支援をすることの重要性が伝わりました。

会場からは多くの質問と貴重なご意見・感想をいただき、実り多い有意義な会であったと感じています。今後も市民の皆さんのご要望に答えるよう様々なテーマで講座を開催していきたいと思ひます。

最後に、一部ではありますが会場からの声を紹介いたします。



- ・ 普段、聞くことのできない話を聞けて勉強になった
- ・ がん治療に向かい合う心の準備ができた
- ・ 応援しようと思っている医療者の方々を知って大変心強く思った
- ・ どの病院でも、こころのケアに携わる方にうまく繋いでもらえるようなシステムになるとよいと思った
- ・ 医療者ががん患者に望むこと、患者が医療者に望むことを意見交換できればいいと思う

